発行：平成 31 年 1 月 31 日

社会福祉協議会「椎名だより」
平成３０年度　第２号　（通算２０号）

発行者：千葉市社会福祉協議会椎名地区
編集者：千葉市社会福祉協議会椎名地区　広報委員会
代表　岡本　博幸　〒266－0021 千葉市緑区刈田子町 28

千葉市社会福祉協議会
マスコットキャラクター
ハーティちゃん

椎名小学校「しいのみ祭」十一月十七日（土）
～高齢者との交流を通し心の絆を深め合う～

1・2年「おはじき／あやとり／お手玉／コマ廻し」

1・2年生は四つのことを自由に好きな順序で体験しました。ちょっと昔のまだゲーム機がなかったころの遊びでは、座敷や縁側に友達が集まって遊んでいました。時には、あられやき餅をご馳走になったりもしました。

「おはじき」は狙い定めてあてます。カチンとした音は清々しく、一個一個のガラスの色の美しさが心に残る遊びでした。

「あやとり」は、一人あやとり、二人あやとり、創作あやとり があります。「あやとり」には、取り合う味わい、糸を織りなす中から生まれる形の美しさなどがあります。誰が考えたのでしょう。

3年生「竹とんぼ作り・凧作り」

「凧天の膏薬」という詩があります。凧が天に飛んでいる様子はまさしく膏薬を這ったようです。いろいろな凧が風を切って、音を鳴らしている様子は冬の風物詩です。

プロペラ作りは微妙なものでした。角度、傾き、薄さ、三拍子が揃ってないと飛ばないのです。芯を回して飛ばし、天に向かって昇って行った時の気持ちは最高でした。ナイフで少しずつ削る喜びは掌に残っています。

4年生「絵手紙作り」

私の書棚に「多羅葉」が一枚飾ってあります。今から十五年前京都桂離宮に行った時の思い出です。そこに「タラヨウ・ムクロジ・葉書」と書いてあり、黒褐色の文字が今も鮮明に残っています。

葉書の葉を見ると、平安時代の庶民には紙が無かったころ、多羅葉に気持ちを書いて伝えあったのでしょう。想像するだけでも心がわくわくしてきます。

手紙の文字・絵には書き手の心が表れています。書く習慣を大切にして友達に出してください。パソコンはだめ。手書きでね。

5年生「しめなわ作り」

5年生は稲刈りした藁で注連縄をつくることでした。目的は神に対し、豊作への感謝の気持ちを藁に込めて織り込むことです。注連縄をなうことは、神と自分が一体となっていく姿を表します。

注連縄作りは、①和飾り②三筋の垂れ③紙垂④ゆずり葉、最後に松を飾り完成となりなした。飾る者にも人々の願いが込められていることを体験しました。

注連縄は地方、地方によってさまざまな形があり、それにそえるものも違います。これを機に日本人の考え方を学んでほしいと思います。児童が作ったお飾りは教室いっぱい飾られ、すがすがしい空気が漂っていました

6年生「陶芸体験」

どろんこ遊びは楽しい。子どもの頃の気持ちが蘇ってきます。まるで縄文・弥生時代に帰ったかのようです。

陶芸は刈田子の陶芸家の指導で行われ、そこの窯で焼かれました。

粘土をこねるのは、何とも言えない感触です。少しずつ形を整えていき、あっちこっちからと眺めては、捏ねて形を完成していく過程は楽しいものです。失敗しても失敗してもやり直しができるのが陶芸の魅力です。

絵付けして、完成。窯で焼かれてどんな作品になって出来てくるのか、待ち遠しいことでしょう。作品は私の宝物として児童の机に飾られることでしょう。

（岡本記）

5年生・稲作体験のまとめ

十一月二十二日（木）「太巻きずし作り」

体育館の端から端まで一本のテーブルを繋げ、約25メートルの太巻き作りの挑戦です。割烹着姿の5年生45名が体育館に入って来ると、皆、やや緊張した面持ちでした。

挨拶が済み、全員が所定の位置に就き、ＪＡ婦人部長の鴇田さんの掛け声でご飯がのばされ、ご飯の上にキュウリ、かんぴょう、魚肉ソーセージの具が置かれました。

いよいよ巻く作業です。簀巻きを持ち、気持ちをそろえスタートの合図を待ちます。眼差しは簀巻きに集中しています。掛け声まで「巻けるかな・失敗しないかな」と緊張が一気に高まります。

「行きますよ。せーの、ハイ」

皆の想いがひとつになり、25メートルの太巻きずしができました。

「皆さん一斉にもち上げますよ。せーの。ハイ」と高く持ち上げられ、一本の長い太巻きずしの完成です。緊張から喜びに変わり「すごい、すごい」の歓声の声が上がりました。

お寿司は全校児童に配られるよう切られ、5年生はその場で三個ずつ頂きました。自分で作ったお寿司を少しずつ確かめながら食べていて、幸せそうな顔が印象に残りました。

「帰ったら自分で作ろう」この言葉の中には太巻きずしづくりを通しての子どもの成長が見えた気がします。できたという喜びと自立の心が芽生えたのです。また、豊穣への感謝、共同の絆、体験の尊さを体感したことと思います。特に大切なのは感謝の心の表れでありました。（岡本記）

十一月二十八日（水）「感謝の会・研究発表会」

ＪＡ・ライスセンター・民生委員・社会福祉協議会の方々の前で総合学習米作りのまとめの研究発表が行われました。

校長先生の「はっきり・慌てず・落ち着いて」の挨拶のあと、

①稲の育ち方、バケツいねの育ち方カレンダー
②無農薬栽培の意図
③農家の減少とＪＡの役割
④品種改良と米の種類
⑤米から作る伝統料理
⑥昔の稲作の歴史と工夫
⑦昔と今の米作りの比較

これらの発表が行われました。どのグループもよく調査し、アイデアのある発表でした。この発表は総合学習の米作りのまとめでありました。

体験したことをまとめることは知識体系を構築していくことであり、新しい知見を獲得する大事な学習です。地域の方々との共同体験を共有することができたことは子どもたちのこれからの人生の宝物となっていくことでしょう。

帰りに児童が作った、黄粉と小豆のぼた餅を頂いて帰りました。

（岡本記）

第六回　６年生羯鼓舞の発表

十一月二十八日（水）　椎名小学校体育館にて

羯鼓舞の第一回は平成二十五年十二月七日・椎名小学校創立百四十周年記念行事の一環として舞が行われました。

当時の森正一校長先生の想いと岡本との考えが一致し、椎名小学校で羯鼓舞を披露することになりました。脚本作成までには、かなりの時間と労力を費やしました。

というのも、羯鼓舞の伝承は「刈田子の高梨征次さんの家で舞を参った」という言い伝え、その言葉だけしか残っておりませんでした。文献・伝言・所作・用具等は一切なかったのです。脚本づくりは岡本に一任され、千葉県各地の羯鼓舞の見学、佐倉歴史博物館での資料収集などを行い、平成二十四年から二年間かけてようやく脚本が完成しました。その後は、年次ごとに演舞の内容の修正・補足をしながら今日に至っています。

平成三十年第六回羯鼓舞の発表は素晴らしい演技を披露してくれました。５年生と６年生の息もぴったり合っており、本当に素晴らしい演技でした。

舞一つ一つに先人たちの祈り・願い・想いが込められており、それらの魂が天上の神々に龍が届けているかのように感じられ、私自身もそんな姿を想像しながら見入っていました。

昔は雨乞いの儀式でありましたが、今は、地域の発展、地球の平和の希求を願っての舞いを行っています。舞は昔と変わりありません。人間の自然に対しての畏敬の念は変えてはならないと思っています。

幕間に自然に起こる児童の拍手にびっくりしました。演技者と観客者が一体となっているように感じました。

「演技はすばらしかったよ。６年生になったら舞うのだ。地域の伝承行事を継承するのだ。５・６年生ありがとう」という感謝の拍手の様でもありました。この様子は最後まで続き、微笑ましい姿でありました。人間関係が希薄になっていく今日、また地域の共同体意識が薄れている今日において、椎名小学校で演じられる羯鼓舞は地域の共同体の絆と人間性を回復する一つの要因でもあり、ふるさとの誇りとなっていると信じています。

羯鼓舞の用具は手づくりで貧弱なものではありますが、舞う心は崇高なものでありました。また新しい演技を期待したいと思います。（岡本記）

福祉講話・福祉体験

福祉講話／講師　視覚障がい者　浅井昭子さん

『挑戦する心を大切に』

十二月十七日（月）、椎名小学校５・６年生84名の児童に対して「挑戦する心を大切に」という話を、視覚障がい者浅井昭子さんがしてくれました。

浅井さんは46歳の時、勤務していた病院で消毒液が目に入ってしまい、視野が縮んでいく網膜色素変形症となり、現在はほとんど見えない状態になってしまったそうです。見えなくなるにしたがって家に引きこもり、人に会うのが嫌になっていたとのことでした。

しかしある日、同じ障がいのあるお友達の誘いで、点字を習うきっかけができ、生活が一変したそうです。眼は見えなくても挑戦してみようという気持ちになり、それから、点字、読書、パソコン、インターネット、メール、ピアノ、家計簿、登山、カラオケ、旅行等に挑戦しできるようになったそうです。

継続することによって、生活が豊かになり生き甲斐ができ、健常者のときには考えもしなかったことまで今ではできるようになったそうです。

皆さんも、挑戦すること、継続することを大切にして頑張ってください。また障がい者の方に接したら気軽に声をかけてください。（岡本記）

障がい者スポーツ『ゴールボール』体験

『耳を澄まして、鈴の音はどっちかな』

福祉講話が終わると、山根和子さん、門脇倭雄さんの指導で障がい者スポーツ・ゴールボール体験をしました。

ゴールボール体験前の注意事項は、

①見学者は試合中声を出してはいけない。
②１・２kgのボールの重さと鈴の音の感触を理解。
③目をつぶってボールの受け止め方の練習。
④両足両手を伸ばしてボールの受け止め方の練習。
⑤４カ所の守備範囲についての確認。試合形式で練習。
⑥左右に分かれて試合を行う。

アイマスクを付けて相手が投げてくるボールを真剣に受け止めていました。一投一投の結果に拍手と歓声が上がり、障がい者スポーツの喜びと理解が深まっていきました。体験が障がい者への理解を深める授業でありました。

※本田、秋葉、笠井、小川、岡本、社協猪野参加　（岡本記）